

2024年5月28日

各 位

会 社 名 トレックス・セミコンダクター株式会社  
代 表 者 名 代表取締役  
社長執行役員 木 村 岳 史  
(コード番号：6616 東証プライム市場)  
問 合 せ 先 執行役員  
経営企画室 室長 前 川 貴  
(TEL. 03-6222-2875)

## 2023 年度「当社取締役会の実効性の分析・評価」結果の概要について

当社は、取締役会の実効性を高め、企業価値の向上を図ることを目的として、2023 年度における当社取締役会の実効性を分析・評価いたしましたので、その結果の概要を以下のとおりお知らせいたします。

### I. 分析・評価方法

当社取締役会は、2023 年度における取締役会の実効性を分析・評価するため、2024 年 4 月に取締役会事務局が作成した取締役自己評価調査票に基づき、社外を含む全取締役 9 名（監査等委員を含む）が自己評価を実施し、その結果について 2024 年 5 月 28 日開催の取締役会で分析・評価を行いました。

### II. 評価項目

取締役自己評価調査票の主な項目は以下のとおりです。

1. 取締役（会）の役割・責務
2. 取締役会等の機関設計・構成
3. 取締役会の実効性・活性化
4. 任意の仕組みの活用・連携
5. ステークホルダーとの対話・開示

### III. 分析・評価結果の概要

各取締役による取締役会の実効性にかかる自己評価の結果、上記の各評価項目においておおむね適切であることを確認いたしました。特に、経営方針や戦略の検討、重要な業務執行の決定において、各取締役が重視する要素や観点に大きなばらつきは見られず、適切な機関設計のもとで活発な議論が行われたことから、「取締役会の実効性・活性化」について高い評価となりました。一方で、リスクマネジメントの強化と迅速な対応策の策定を課題として認識いたしました。

この評価結果を踏まえ議論した結果、2023 年度の実効性は「おおむね有効であった」と結論付けました。

#### IV. 前回評価において確認された課題への取組み

2022年度の評価においては、取締役会の実効性を更に高めるために、「取締役会の適切な議題選定」「経営計画の進捗状況に関するフォローアップ」「サステナビリティへの取組み及び課題への対応」を課題として確認いたしました。

これらの課題に対する主な取組みは、以下のとおりです。

- ・重要な事案について、時間をかけて慎重且つ丁寧な検討・審議を行いました。
- ・取締役会に加え、取締役全員が出席する事業推進会議において、アジェンダを工夫すること等により、経営計画の進捗状況に関して理解を深めました。
- ・サステナビリティへの取組みについて、建設的な議論を行うことができる体制及び仕組みを構築いたしました。

#### V. 取り組むべき課題

今回の評価結果から、取締役会の実効性を更に高めるために取り組むべき課題として、以下の取組みが重要との認識を確認いたしました。

- ・取締役会におけるリスクマネジメントやモニタリング機能の更なる強化
- ・経営課題や対応策についての議論を活発化させるための取組み
- ・サステナビリティへの取組み及び課題についての議論の深化

#### VI. 今後の対応

当社取締役会は、これらの課題について議論を重ね、取締役会の実効性の向上を図り、これからも中長期的な企業価値の向上を目指してまいります。

以上